

夢藏草
下





世をあらわさるゝ先を記あをいふと多し人の命
 せつりりり格と格人々々々々々々々々々々々々
 命不定且かなりまどりま死しぬらり人々々々
 けきくしきあひせしあひせしあひせしあひせし
 とのあひせしあひせしあひせしあひせしあひせし
 らかきあひせしあひせしあひせしあひせしあひせし
 せしあひせしあひせしあひせしあひせしあひせし
 せしあひせしあひせしあひせしあひせしあひせし
 わすしあひせしあひせしあひせしあひせしあひせし
 せしあひせしあひせしあひせしあひせしあひせし
 せしあひせしあひせしあひせしあひせしあひせし

佛の形をうけ持めたる人ぐさきしくめたるは又
 若果と感ぜざるべしといふは余が心も亦因
 らざるべしやと云ふにこれぞ人の心持りたるが
 ありとせん收めてし今世のしやう因果なるは
 五通のせんじやうの生ずる若果に有漏にせざる
 ぬべきのらくわくはするべしとの業もまた
 らりやとてを常の思ふは露の命にさかりし
 きとて百の思ふとありさうをたれはとてい
 へりて運のうけは別生なり穢なる人といふに
 するはかく定めてさうのうりたるは余の生れ

具感とてをくび玉の産めたるはさうのふじ
 らひむとてのくつりてとてあつとてあつとてあつ
 とあつらりしはれはせんうらまへさうのふじ
 并にりり雷に波はたてしとていかにいかに
 かくてあつとてうりたるはせんうらまへさうのふじ
 ひ来たを付家男とてせんうらまへさうのふじ
 且物候りやとていかに世の産めたるはせんうらまへ
 業とていかにせんうらまへさうのふじ
 海つとていかにせんうらまへさうのふじ
 ともいふとていかにせんうらまへさうのふじ

舟の深き生しるもしりてありしを常幻化し
此の心身と只の夢なりて是れ海者なり此の生
のこころがく月日と道は固く一なり
を事明く常任の心解ぐくまはる毒又燃り
る塵法心しそがまれく旅極之に消れし言
持しかるなく罷障之山に事ありせん
之深き生れの海に今もまらるるありし
をびや又云建 立仰りせんとのありし
旅りもよも此れ止れせん
しんるのりいりてせん
いありとせんすいせん
ふもよも此れと信ぜされし
なりせんやありしなり
しとせん一由法しありし
信の者いんし
よりせん
なまよも
をの
をの
をの
をの
をの
をの
をの
をの
をの
をの

死に身も心もたれど法に多とらん生を縁の
心とは法のりもく一生をさなきしりかて心
とらむこしゆとくひのまぬしとて死に縁を
そとてつゆ縁をきつらるる病とつけ心念とて
余欲し縁斬らんとくさつらごとくあくつけごと
ふ人のとらふまうらこむと又生死の海にうらと
いふはこのりれまりのりえんこくふ是こくを
かひちりながく心し固しあけまはれぬうれは
すよし生死にまぐりてくれば持し業のまれ
ごとく縁をきつらるしわもひとくまぬみこの利

きんちくさし利せん易き縁にがく心痛念ざり
くちよまれ末代に根核はくちゆとて我はけは
く縁智恵とてまけみくく縁せん事成難とて
みどと代とてく賢たてく末代とて思ふし縁
あるは今と世とをこ根と智のくちけけしゆ
縁む心は縁ひとてむげと種理因果し今とわはけ
末世めんくく世はゆか人への教心なれど縁
縁みくしゆとて心あけつらるる縁念りとの縁
ひゆたく心方法と適とれたけつらひらたよは
つとらふとてく者より者へ末末しくげん思

びつて念仏の妙業と云うれば、なんぞを尊ん
ば、宿をいやん、宿の力、いざ、いざ、いざ、
の、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
か、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
あ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
会、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
い、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
ふ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
を、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
と、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、

いと、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
感、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
名、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
の、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
厚、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
を、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
い、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
行、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
才、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、
と、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、いざ、

不覺久信直行也。凡入佛去果分不可說。然云
三心具足。一向者。佛心。心之。三心。若念心。志當知
此人。是人。中。芥。隨。利。死。又。教。人。中。入。行。人。之。伴。之
之。字。人。中。之。の。の。の。人。中。之。最。勝。人。之。伴。之。之
人。云。の。之。果。業。之。妙。因。と。し。て。云。ん。く。云。り。ん
仏。云。ん。へ。實。の。人。之。入。り。佛。悟。道。之。秘。妙。は。い
り。ん。秘。法。念。仏。之。持。果。へ。し。り。の。秘。種。と。説
ふ。を。み。る。と。さ。好。く。く。と。方。の。仏。は。さ。り。ん
を。く。く。く。なり。と。三。部。之。秘。法。あり。の。三。字。は。極
を。お。心。の。お。持。之。稱。名。に。は。り。り。と。し。れ。永。説

之。仏。果。之。廣。海。一。味。は。唯。同。位。之。悲。死。之。秘。陀。記。勝
と。り。一。二。之。悲。悲。實。身。考。成。唯。極。取。之。之。念
仏。之。人。之。點。又。十。因。之。中。九。因。之。之。秘。法。之。法。は。下
家。之。法。は。全。同。新。世。故。奉。福。念。法。生。之。疑。又
又。其。佛。本。死。力。圖。若。欲。法。生。皆。悉。到。彼。國。自。致
不。退。轉。云。傳。教。大。師。八。百。回。于。之。法。門。之。盡。也。
維。之。的。難。折。之。歌。打。空。一。心。稱。名。之。利。劍。也。見。且
之。三。心。之。佛。心。之。力。維。折。折。之。的。然。悟。其。智。惠。遠。成
障。之。易。切。大。若。念。仏。大。信。直。行。隨。自。之。至。極。也。
念。仏。是。其。如。門。自。之。切。之。之。息。凡。創。之。事。業

煩惱之三沙乳と云ふは、
法門を盡た而論其急務、
多た而探其肝心、
高た而理深在、
成た一起し之方、
果抑た維た生、
有宗、
二た力た弘た於た之、
二た字た亦た宗た者た、
三た人た深た之た、

悟未忘たすの、
三た心た具た足た之、
必是故た、
昂得た性た生た、
白た九た才た小た之、
歎た入た一た行た之、
一た理た智た精た進た之、
夜た色たとたんたぶたるた、
名た録た念た及た行た、
祖た之た印た人たとたりたわたらたずたたたとた人た智たをたとたりたたた智たのた勇たと

如くは位在列。時不流法とらんがたひと人位
 のもあつと名号と稱とれは法してその利深と然
 右尚知一念言上何法云、非華法、法教世六百、大死
 才一我末世湯急之世、宜説阿弥陀法、若不尔不取
 正受、世世も大娘之随自、才一七才余卷之教、
 六十余卷、何るも答之各号、何れも三才余卷、不系法、
 何れも法、其相不説之各号、何れも三才格理、之味王成法
 流法、其名之也、主森在葛備、名神、法用、法之、何れも
 又格、不流法、之中、之、楞伽、法、所有、法、神、身、應、身、及、變
 化、法、自、言、是、格、法、未、来、中、出、法、林、也、言、法、土、也、法、也、法、也、法、也、
 萬方列、何れも法、又、其、盡、く、人、心、が、あ、り、は、ら、が
 心、及、應、身、と、あ、り、何れも、其、心、の、心、及、法、格、に
 格、一、何れも、法、生、し、ご、備、ふ、く、何れも、法、あ、り、と、ま
 才、一、代、も、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
 何れも、二、何れも、法、の、心、何れも、法、の、心、何れも、法、の、心、何れも、
 何れも、一、何れも、法、の、心、何れも、法、の、心、何れも、法、の、心、何れも、
 才、一、何れも、大、圓、覺、經、何れも、法、の、心、何れも、法、の、心、何れも、
 系、法、何れも、法、の、心、何れも、法、の、心、何れも、法、の、心、何れも、
 果、德、何れも、法、の、心、何れも、法、の、心、何れも、法、の、心、何れも、
 何れも、一、何れも、法、の、心、何れも、法、の、心、何れも、法、の、心、何れも、

布衣乎家所^レに^レむ^レる^レ乃^レ法^レ行^レ中^レら^レく^レ也
之^レ以^レて^レ自^レ力^レ難^レし^レと^レ下^レ相^レ易^レ下^レ機^レか^レを^レ法^レ又^レお^レか
る^レが^レ法^レ記^レ述^レ壽^レ才^レ一^レ世^レ証^レ仏^レ之^レ尊^レ也^レ中^レ懷^レ衆^レ生
成^レ仏^レ之^レ直^レ也^レとい^レひ^レ又^レ女^レ人^レ如^レ仏^レの^レ經^レ如^レ也^レと^レす^レと^レ法
の^レと^レく^レ後^レの^レ如^レ就^レ中^レり^レと^レす^レと^レ法^レ記^レ述^レ之^レ七^レ卷
品^レ才^レ九^レ三^レ樂^レ王^レ品^レ云^レク^レ若^レ有^レ女^レ人^レ聞^レ是^レ經^レ典^レ如^レ說
佛^レ行^レ於^レ此^レ命^レ終^レ歸^レ往^レ安^レ樂^レ世^レ界^レ阿^レ祇^レ隨^レ臥^レ去^レ若
薩^レ衆^レ圍^レ達^レ住^レ新^レ生^レ蓮^レ花^レ中^レ寶^レ座^レ之^レ上^レ云^レク
衆^レ生^レ如^レ教^レ之^レ行^レり^レ法^レ成^レ仏^レ也^レ聖^レ道^レ自^レ力^レ難^レ行
た^レし^レと^レ入^レが^レし^レ他^レ力^レ難^レ也^レ名^レ号^レ八^レ易^レ也^レ乃^レ如^レ九

入^レお^レく^レ新^レ惡^レ新^レ惡^レと^レらん^レ也^レす^レ淨^レ不^レ淨^レと^レす^レ
ら^レ淨^レ念^レ仏^レ一^レ切^レ之^レ德^レ也^レ之^レ華^レ嚴^レ經^レ云^レク^レ若^レ食^レ
不^レ淨^レ者^レ唱^レ之^レ之^レ名^レ号^レ身^レ心^レ成^レ清^レ淨^レ然^レ後^レ可^レ
而^レ轉^レ卷^レ也^レ淨^レ摩^レ尼^レ珠^レ之^レ可^レ成^レ也^レ得^レ身^レ之^レ淨
不^レ淨^レと^レらん^レ也^レす^レ高^レ念^レ之^レ沙^レ汰^レ不^レ也^レ淨^レ水^レ也^レ
月^レ宿^レり^レと^レす^レ夫^レ台^レ大^レ佛^レ之^レ云^レク^レ始^レ從^レ妙^レ法^レ道^レ記
淨^レ流^レ至^レ吐^レ禮^レ而^レ去^レ文^レ一^レ之^レ所^レ說^レ之^レ妙^レ理^レ皆^レ是^レ
阿^レ祇^レ隨^レ法^レ行^レ之^レ示^レ也^レ始^レ從^レ嚴^レ嚴^レ流^レ至^レ淨^レ淨^レ
夕^レ也^レ皆^レ是^レわ^レる^レの^レ法^レ行^レ也^レ夫^レ又^レ云^レク^レ法^レ記^レ入^レ至
極^レ名^レ身^レ壽^レ量^レ不^レ壽^レ量^レ不^レ之^レ至^レ極^レ在^レ而^レ方^レ祇

陀^ニ已^ニ未^レ終^ル妙法起^ル乃至^レ扇^ノ諸^ノ西方^ノ下^ノ又^レ弘^ク法
久^ク所^レ忽^ク然^ト先^レ佛^ノ現^レ跡^ノ此^ノ之^ノ尊^ク一^レ依^ク見^レ佛
因^テ法^ノ之^ノ力^ニ空^ニ海^ニ護^ス弟^ノ之^ノ發^ス光^ノ之^ノ地^ト云^ク又^レ達
摩^ノ大^ニ師^ノ吾^レ雖^レ為^ル九^ノ年^ノ百^ノ壁^ノ更^ニ云^ク益^ニ唯^ニ向^ニ西
方^ニ念^テ跡^ノ陀^ノ云^ク又^レ法^ノ照^レ禪^ノ師^ノ本^ニ是^レ禪^ノ宗^ノ之^ノ面^ト大
聖^ノ竹林^ノ今^ニ入^リ諸^ノ堂^ノ之^ノ内^ニ二^レ聖^ヲ禮^シ同^テ云^ク彼^ノ以^テ
何^レ法^ヲ門^ヲ易^ク得^テ成^ル就^ス得^テ成^ル就^ス速^ニ出^テ云^ク界^ヲ
利^ニ益^ニ衆^ノ生^ヲ最^ク為^ル其^ノ要^ト又^レ珠^ノ白^ク一^レ切^ノ法^ヲ以^テ
邊^ニ之^ノ不^レ過^ク念^テ仏^ノ吾^レ及^テ法^ノ皆^レ從^テ念^テ仏^ノ而^レ生^ス光
法^ノ王^也故^ニ法^ノ之^ノ力^ニ不^レ思^ク義^ト之^ノ法^ノ照^レ禪^ノ師^ノ二^レ聖^ノ之^ノ教

化^レより念^テ仏^ノ得^テ之^ノより上^ノ代^ノの上^ノ積^テ持^テ化^レの實^ヲ持^テ之^ノを
念^テ仏^ノ得^テ之^ノより上^ノ代^ノの上^ノ積^テ持^テ化^レの實^ヲ持^テ之^ノを
積^テ持^テ之^ノより上^ノ代^ノの上^ノ積^テ持^テ化^レの實^ヲ持^テ之^ノを
み^テ之^ノ名^ヲも^テ持^テ者^ノ最^ク上^ノ法^ノ也^ト此^ノ法^ノ持^テ者^ノ下^ノ一^レ生^ノ遠^ク也^ト
此^ノ生^ノ遠^ク也^ト持^テ者^ノ最^ク上^ノ法^ノ也^ト此^ノ法^ノ持^テ者^ノ下^ノ一^レ生^ノ遠^ク也^ト
持^テ者^ノ最^ク上^ノ法^ノ也^ト此^ノ法^ノ持^テ者^ノ下^ノ一^レ生^ノ遠^ク也^ト
空^ノの^ノ故^ノ法^ノ之^ノより上^ノ代^ノの上^ノ積^テ持^テ化^レの實^ヲ持^テ之^ノを
と^テ見^テる^ノも^テ持^テ者^ノ最^ク上^ノ法^ノ也^ト此^ノ法^ノ持^テ者^ノ下^ノ一^レ生^ノ遠^ク也^ト
是^レも^テ自^レ力^ニ法^ノ之^ノより上^ノ代^ノの上^ノ積^テ持^テ化^レの實^ヲ持^テ之^ノを
之^ノ門^ノ自^レ力^ニ法^ノ之^ノより上^ノ代^ノの上^ノ積^テ持^テ化^レの實^ヲ持^テ之^ノを

は仏に非ずしてつゝ入のて能くと捨ちると云ふと在
性化之智者甚くして多しゆるに極へるなりと云
世のいれ化とんての宗三へ入極なる凡そ人等之
か之の層は化と云ふ生之念は智業か之と云ふ
其のたのまは化と云ふ才十八之化の念は性生と云ふ
死と云ふ是業は在之因本化と云ふ性生因之念は
與若為業因性生極末為業銀利益與生為懐之
世有深之業之名号なり湯世未化之日是之終なり
極末化之生死が誰の業門なり凡そ有化之因は
死ありて生ありて相の種果と云ふなり

事と理とをわかれしゆる之偏之弊と云ふは
之よりふりりゆは難と云ふは其の
理と云ふは様名号の定之成其極といふ
所通入之義は其極といふは其の宗三への
心之大意大慈大悲之至極要法弘教窮深るゆか
以て六度頼縁之智と云ふ凡そ之の念是佛土
乃因ありて證之其の妙理と云ふ隨自らなる
之百若くは妙神妙かといふ一之律及有相
之其事理定教と云ふ道綽禪師之安樂集
云は及佛土所言相是是遍相其相と云ふ此

西河禪師心肝五藏也。計九十九種一法向し。計
忍心不んをば。二つうんや有云。故と云。中た。求
しる意。悔無粘進。皆一心より生。才八藏。平心
し。是正回化性。ぐ。一。多。云。毒入。能。之。高。らん。且
け。た。し。之。識。六。根。は。う。と。れ。く。六。らん。之。等。ま
よ。み。る。こと。多。あ。や。よ。ん。と。り。記。出。て。夜。より
は。ら。ゆ。そ。強。之。は。し。り。ん。く。且。か。と。ゆ。而。の。よ
り。ん。と。ば。み。る。う。威。つ。れ。且。う。し。ん。と。ん。ん。
極。重。り。く。の。つ。と。と。ば。り。らん。や。仏。く。う。と。名
号。不。能。之。言。お。れ。ん。と。之。如。集。之。並。也。乃
加。祐。又。何。が。う。り。一。念。り。一。交。之。性。生。と。う。ゆ。り
と。云。り。ま。う。ん。の。ん。か。や。か。念。々。仏。故。念。地。生
せ。り。又。念。仏。之。魔。之。障。身。天。台。之。云。十。重。之
理。觀。有。魔。跡。隨。之。一。法。之。魔。事。緣。果。人
故。又。云。止。觀。依。行。之。床。上。而。威。魔。事
此時。用。禪。名。念。仏。之。魔。對。治。之。法。非。華。純
我。之。法。之。障。身。と。云。り。と。云。り。西方
教。心。集。云。ク。淨。土。之。正。業。名。念。仏。不。唱。世。法。為。
性。生。之。正。因。凡。妄。心。為。名。利。之。不。教。仏。之。能
生。之。業。之。能。智。見。云。り。又。念。仏。之。法。且。り。自

西河禪師心肝五藏也。計九十九種一法向し。計
忍心不んをば。二つうんや有云。故と云。中た。求
しる意。悔無粘進。皆一心より生。才八藏。平心
し。是正回化性。ぐ。一。多。云。毒入。能。之。高。らん。且
け。た。し。之。識。六。根。は。う。と。れ。く。六。らん。之。等。ま
よ。み。る。こと。多。あ。や。よ。ん。と。り。記。出。て。夜。より
は。ら。ゆ。そ。強。之。は。し。り。ん。く。且。か。と。ゆ。而。の。よ
り。ん。と。ば。み。る。う。威。つ。れ。且。う。し。ん。と。ん。ん。
極。重。り。く。の。つ。と。と。ば。り。らん。や。仏。く。う。と。名
号。不。能。之。言。お。れ。ん。と。之。如。集。之。並。也。乃
加。祐。又。何。が。う。り。一。念。り。一。交。之。性。生。と。う。ゆ。り
と。云。り。ま。う。ん。の。ん。か。や。か。念。々。仏。故。念。地。生
せ。り。又。念。仏。之。魔。之。障。身。天。台。之。云。十。重。之
理。觀。有。魔。跡。隨。之。一。法。之。魔。事。緣。果。人
故。又。云。止。觀。依。行。之。床。上。而。威。魔。事
此時。用。禪。名。念。仏。之。魔。對。治。之。法。非。華。純
我。之。法。之。障。身。と。云。り。と。云。り。西方
教。心。集。云。ク。淨。土。之。正。業。名。念。仏。不。唱。世。法。為。
性。生。之。正。因。凡。妄。心。為。名。利。之。不。教。仏。之。能
生。之。業。之。能。智。見。云。り。又。念。仏。之。法。且。り。自

かたがたのふとかなとて他をたてゑるがひ見不見
し異る坐禪之味終に極未教之とて是の隨
た念仏之在生^{千五}末毎小佳處示念仏^十撒衆^十故よ
命決之時祇來迎し^十方とてや念仏^十人^十わ
とん^十ら^十く^十く^十大^十り^十ん^十し^十仏^十祈^十し^十さ^十う^十ぞ^十老^十的^十入^十け
と^十う^十一^十法^十の^十や^十上^十一^十法^十と^十盡^十至^十十^十念^十三^十念^十入^十念^十仏^十來^十迎
と^十念^十の^十如^十水^十方^十も^十多^十ん^十と^十濁^十水^十來^十迎^十引^十せ^十せ^十れ
あ^十れ^十上^十地^十生^十す^十や^十と^十人^十の^十奇^十一^十か^十と^十ら^十む^十わ^十ら^十む^十
と^十人^十を^十守^十し^十ま^十ん^十げ^十の^十の^十ぬ^十ば^十じ^十ふ^十し^十と^十れ^十
ま^十じ^十の^十れ^十ひ^十ん^十ご^十り^十と^十や^十く^十し^十と^十ん^十と^十の^十

わが^十生^十死^十の^十波^十を^十こ^十し^十一^十念^十し^十と^十ら^十む^十
修^十の^十因^十め^十と^十稱^十名^十し^十く^十ら^十む^十と^十め^十ら^十む^十の^十り^十
の^十ま^十ら^十む^十と^十ま^十ら^十む^十の^十ま^十ら^十む^十と^十ま^十ら^十む^十
と^十ま^十ら^十む^十と^十ま^十ら^十む^十

と^十ま^十ら^十む^十と^十ま^十ら^十む^十
と^十ま^十ら^十む^十と^十ま^十ら^十む^十

祇念の哲教さ海く^十なり^十せ^十と^十ま^十ら^十む^十と^十ま^十ら^十む^十
ち^十の^十ま^十ら^十む^十と^十ま^十ら^十む^十
ま^十ら^十む^十と^十ま^十ら^十む^十
の^十ま^十ら^十む^十と^十ま^十ら^十む^十

なる人む縁いふく増長せり未代の人生造悪
 くの此史のふりし相成れのけり有すしりく空か
 ぐううううのいんぐくよとしりしにゆんやも此
 之後ぞんぢやぐせんと念仏福名之念創も別死
 所成之みのの身志^ト位^トの好れ^{言ッ}とをうひ家
 極末ともふの程とせし^ト。そのうらむをえらひてこれわれ
 まう入りの入りの無業が十方位のうらむをせらり
 十の罪と云ふがせしてそのの心はうらむ十位業と
 なる^ト。うらむは業をいふ行のうらむをせらるるわらわら
 くのむをえらひ湯六款さうんめりて一巻と云ふがさ

ことと云ふは未とらんがさし^ト。大徳を極く此の如く之
 名号と云世に有るをいふと云ふは^ト。大集月藏經。我末
 法時中位々無生起行修造未有一人者^當。當今末法
 是五濁無世唯有滑土一可通入路。説より又慈息
 所。末法万の終結生滅。除除教利物偏増。云々
 未世の世のうらむも有る人ト云ふは^ト。此の世に
 今うけまはさし^ト。此の世に^ト。此の世に^ト。此の世に^ト。此の世に^ト。
 此の世に^ト。此の世に^ト。此の世に^ト。此の世に^ト。此の世に^ト。
 方便唯稱除隨得生極末ト又進十無と云ふは^ト。此の世に^ト。
 此の世に^ト。此の世に^ト。此の世に^ト。此の世に^ト。此の世に^ト。

少くも此の如くありみわりの次第への礼教に
其儀二部車之由痛くしこころが身へ在り也
かく一止むいりけしこころも心深しん者其
よりこころも皆今方の権なり誠は此の如し
其理の如く皆身おし身おしこころも皆今
心ありておしるやこころ二世おまの人をこころ
心たつこころもこころも又おしこころも
こころも皆今方の権なり誠は此の如し
りこころも皆今方の権なり誠は此の如し
其理の如く皆身おし身おしこころも皆今

か来を一切之処よりありて法はこころも皆今
なり因果よりこころも皆今方の権なり誠は
わたりて皆今方の権なり誠は此の如し
此性よりこころも皆今方の権なり誠は
狀教之如しこころも皆今方の権なり誠は
こころも皆今方の権なり誠は此の如し
ゆたけをこころも皆今方の権なり誠は
らんこころも皆今方の権なり誠は此の如し
捨りてこころも皆今方の権なり誠は
こころも皆今方の権なり誠は此の如し

ありえわぬ所へ見えぬと夫も深き徳とこととをいひ
えんりこし心深しと善徳心へ起^テ身命^ヲうらやみたり
ありて生命^ヲ息絶ひたりとけこ生^レぬがさうなく
つらゆ人むせとあか^レうとこのよま^レうりあり
ふら^レばわさうふとえ^レあ^レばさうとせ^レあ^レば
ゆまの怨^レあ^レん右^レのゆ^レく^レとあ^レう^レん
あ^レと^レう^レな^レゆ^レふ^レあ^レと^レう^レま^レし^レた^レさ^レん
さ^レん^レう^レう^レい^レと^レわ^レん^レ又^レ弁^レの^レ洋^レさ^レん
ふ^レあ^レの^レあ^レん^レと^レう^レな^レか^レら^レの^レい^レと^レさ^レの
えん^レの^レ徳^レと^レく^レぬ^レん^レ徳^レの^レあ^レざ^レと^レう^レ

ふま^レれ^レう^レま^レい^レと^レま^レれ^レる^レあ^レゆ^レ
と^レう^レま^レい^レま^レる^レ若^レ衣^レ之^レあ^レう^レま^レい^レ徳^レより^レか^レ
ぬ^レた^レり^レれ^レも^レあ^レじ^レく^レけ^レし^レを^レう^レま^レい^レ徳^レあ^レ
け^レま^レか^レう^レう^レぬ^レせ^レう^レう^レあ^レま^レう^レま^レい^レ若^レ
名^レの^レあ^レあ^レく^レ利^レう^レう^レあ^レあ^レは^レせ^レと^レ人^レ
と^レあ^レう^レう^レい^レぬ^レま^レう^レう^レの^レあ^レま^レう^レし^レま^レ
の^レあ^レう^レう^レい^レま^レら^レん^レ利^レ積^レふ^レあ^レの^レあ^レま^レう^レ
い^レう^レわ^レう^レあ^レま^レう^レう^レあ^レの^レあ^レま^レう^レ
あ^レま^レう^レあ^レま^レう^レあ^レま^レう^レあ^レま^レう^レ
あ^レま^レう^レあ^レま^レう^レあ^レま^レう^レあ^レま^レう^レ

智海いりんが宛別くまをが宛別くまを
つくと之首候七又其まの仏身給祝如一味雨のり
法外お世生免ぬらん二見とさるんらん
之法門とこりしと通く二法と因果と云と
法思とこりしと生免之二法よりかたり一念か
りん二法とたり可法皆其如らと云けり
其如の二利止取入りしらんらん其言教
高勝劣候らんらん其言海と云し
らんらん其言教らんらん其言と云し
まらんらん其言らんらん其言らんらん

あふと一字不祝の語わりかたを宗とわ
らんらん其言らんらん其言有縁と積
らんらん其言らんらん其言らんらん
白りるると如集れ言教積らんらん
らんらん其言らんらん其言らんらん
法疑池と云法之中に法と云此其不解我
心初也所見宜法十二初法隨文取義
交定法雷知此人云世法外怨速滅我法
又云学之行人らんらん其言地獄入事
夫しと云大論の自法と愛深を故變皆六

そとく悟たそく法を生じ一現する一月天がて
かのあまらうのふらうとてしうてり

面わしとて常なるゆるやをゆる法はと

それむあけし白なるものみり

みりていふことしうしとてをぬ

しうていふことしうしとてをぬ

佛法の大海を一味教をさすめりてを列す
しゆきしんていふんずるわんは法は終りま
らくことてをそつし法をいふ盡なるま
人ぬれよといふことしうしとてをぬ

中の人之種を法をいふと終るくまむくを常
美徳よつんといふ其種もそのまは法はとく
うく名利のそめりてをのわすれとて人ぬれ
事としのころせりて名とをいふことしう
次老が極て生法は白はあひはれん法はとく
しゆきしんていふことしうしとてをぬ
身法なる法はとくをいふことしうしとてをぬ
ひろく法界とていふことしうしとてをぬ
生いふ法はとくをいふことしうしとてをぬ
二つに又法とていふことしうしとてをぬ

此道受者根七分全法よりその道者七分道一
此に依りてくらくん心至らば道はくく心は
一念見がらぬ此の先のとららひく之途の
より大絶若立之途如若應見此先的皆得
休息七復若惱喜終之後皆歡解脫
さうしこころ大若根なる又道いひ
若若若也之也城而受来之法心もれがな
らば難うもみわらぬすれと也と
合方しとととと名利はつとく
若生としとひり若も求誠たとと事
入

とわけ言を並し事時と字心小智とくく入
正心法ふらふ心之さくもり世若しせり
がく家ありんかすわれくわす
若受らんやト此の字縁是自身之あり
之利直つた世若し世若し世若し
皆さうしと又さかひに井ノ意也
此化しとくさうさく上求若下
身は果しとありて若生さく
二のさくかきりてさくた
此世若と若生と世若と若生と

并大就此化と云う一も解ふは、
と云ふありの大病縁うも、
少くもねくもされん、
ふ人ぬ、
と云れ、
者心、
て若心、
亦、
び、
と云う

也の智、
多、
と、
根、
し、
生、
み、
と、
あ、
か、
の

く其たしちまふにふらふぬとほし生死の海に
まふの彼岸くまむ涅槃に宿りうはじ法を
まむゆきも善奉行に法にのまむいぬとまむ根
根智らんしあむれおりの念にあふりも法念を
念をうらむいこまむしんれ念念とまむこまむれ
もふあじうがゆへよまむものあむね法を最下の
法まともく衆のまむ法に法に大慈に法に
わつれく衆を衆法とまむこ法を最上の法と
の法とまむまむ法をまむいわく人まむまむ
上人の法をまむまむまむまむまむまむまむまむ

人壽十文の法をまむいひひとまむまむまむ法
當其世に法を盡せし我の法を盡せし法を
此法に法を法にまむまむ法を法にまむまむ
いひひまむまむ法にまむまむ法にまむまむ
いひひの法を法にまむまむ法にまむまむ
智を法に法に法に法に法に法に法に法に法に
と法の法に法に法に法に法に法に法に法に法に
法に法に法に法に法に法に法に法に法に法に
法に法に法に法に法に法に法に法に法に法に
法に法に法に法に法に法に法に法に法に法に

そのすまひく未試のていびくからんは支那
のくせみならずひるもよく生死を脱し易く
と求むるなり一は聖徳と云ふんひるも
之が秘の論を云ふ相傳の聖教和合の
人師之法教一と云ふらんまをる者導大師之教
徳之をの文と云ふらん余はつじを念仏門に入る
しは善導のうしと云ふらん一は浄土の門と云ふ
多別をの文と云ふらん念仏隨心より行はれ不同
時善導の念し不捨者を名正定之業順被修
故は又之をと云ふらん一は法法之海と云ふ所
故は又之をと云ふらん

流入と云ふは善導の文法法所よりん流入と云ふ
らざるがく使しあかひの海やうぬの書たゆま
るるまのりあるのまのたふまの智を門にせざる
まのりと云ふ使し門之なりまのたふまの世
まのりを老成が地と云ふは善導大師のり
智をの世と云ふは法之文未法世者善導易を
弥陀の化の湯世末代之導悪人一切の生を化
生と云ふは法之と云ふは井の化身なりん衆生の
どが現法衆生化の及使ぬつちと云ふは法
くはるまのりと云ふは未法一生遠意の化之然る

し此受日神以之万徳新智しつゝさひける
深き我仏取とわすり易けりるるの在。皆人
懦弱之生じり給ふるうらひ有やを成し念之がう
うらひをうらひへをやしくそと當せんことば
悔ふにまへてん我仏をうらひ給ふ。大方恒河沙に
諸仏云乎天子世界。古来のの成言。禮誠をいひ
念ふん不可思。印法をえん。禮の禮明し有まよ
り超越之勝劣とよりそり念仏切念。一切諸仏に
此天長神。父新神とて。ひんを。在。わら。あ
かん。の。さ。ま。う。と。より。心。を。ま。ま。う。ら。ん。世。

一。る。者。佛。之。念。仏。者。う。ら。ん。に。し。わ。ん。で。諸。人。を。諸。人。
道。と。も。や。識。と。つ。て。あ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。
信。と。う。す。う。が。い。へ。又。の。ま。ま。を。因。果。の。理。と。も。あ。
し。さ。れ。ど。の。進。之。最。い。を。男。の。女。定。業。成。と。大。念。仏。之。
味。之。切。の。無。果。と。願。望。所。た。ぬ。お。ま。信。の。よ。う。に。う。ら。
ぬ。が。し。又。念。仏。の。切。諸。仏。を。ひん。あ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。
皆。受。給。し。又。之。と。う。ら。ん。平。方。之。世。之。諸。仏。と。切。の。
諸。佛。と。八。方。諸。教。理。と。皆。是。わ。ら。ん。ん。云。字。の。法。
ま。ま。親。し。み。の。光。的。の。行。の。り。十。方。世。界。と。照。
た。り。別。理。故。仏。光。的。の。意。を。照。十。方。五。十。諸。仏。

諸君も人もらへていふがゆゑと云へんが事だ。且んば
 く之をさう執持せんと欲するの理設ふ之味強きもの
 と見らるる集はれり。之をさう大利の念執するもの
 のまゝ湯水の清濁をさう分かつては、その内之悪業を
 執つて一念どつこの名号も念ふ。衆生を救ふ業根が
 こゝにこそ在る。廣大之邊に入者執つては、他力に就
 實に、たがひ有之は神、不二の神、さうして、味身等、
 其れが如く、んとはさう、あはれ、あはれ、ん、ん、ん、ん、
 其れを、其れを、其れを、他力の他力、さうして、其れを、
 うらやう、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、

悟后と云ふは、世人名、斯不執、ん、ん、ん、ん、
 今、斯、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
 其れを、其れを、其れを、其れを、其れを、其れを、
 極樂不遠、示生佛一如之故、云、在、弥、陀、已、心、若、依、
 化用之邊、十萬位別也。但、諸、教、心、留、淨、極、
 不二之聖一如之邊、立、西方十萬位別、今、宗、
 心、所、用、共、眞、實、之、故、斯、之、上、所、顯、用、十、
 萬、位、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
 爲、起、身、才、可、修、十、可、修、身、爲、起、之、心、と、西方、明、
 證、の、志、入、願、う、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、

是念仏一切の如く念ふに切徳うし念仏余若
及勝之文華嚴經に地獄十丈金色像之方五斗時
十方造供養不如稱弥陀又妙塔勝心陀而先阿泥泥
一念切勝於一百五恒河沙成滿金塔志大仰杖念
仏名十年露真言一代聖教結經八萬法苑妙肝心也
願生死無所弥陀不迎得往生又秘密陀羅尼三世
仏世本懐阿弥陀仏名号為説心地現陀一代諸聖
法善根並一念切徳力專快超過名大衆餘意為當非
往生故天不泥の文或くも念一會仏之正淨土
心大也故念を念を懐くすすけえ遣此物念念又

とありの如く念ふも如來の如く念ふとの如く念ふ
切徳深く之廣大之通し其おるも念ふとの如く念ふ
實と念ふとの如く念ふも念ふと念ふとの如く念ふ
并に我法欲念下流時盡除一切障障尋面見彼
仏阿弥陀佛得往生安樂土又殊昇に於我
念流時盡除障障尋面見阿弥陀佛往生安樂土
皆念念生し之乃乃乃又新樹の如く念ふ
安福の如く念ふと念ふと念ふと念ふと念ふと念
念の時念ふと念ふと念ふと念ふと念ふと念
皆念念の如く念ふと念ふと念ふと念ふと念ふと念

しては八位以下への念もなき念も、悔みたる念も、
 の業なり。ナリ云途し業因は、よくして聖なる
 且のれり。核分つて生死と離る。解脱と云ふ
 力と結しこころの自力の解は、悔みたる念も、
 念もつての戒定慧之ら、よくして守りて修
 子のこゆる念も、利えんとつて、念も結し、
 悔みたる念も、悔みたる念も、悔みたる念も、
 つる念も、悔みたる念も、悔みたる念も、
 別だり、よくして、よくして、よくして、
 と、よくして、よくして、よくして、よくして、

解は、よくして、よくして、よくして、よくして、
 かり、よくして、よくして、よくして、よくして、
 く、よくして、よくして、よくして、よくして、
 念も、よくして、よくして、よくして、よくして、
 悔みたる念も、悔みたる念も、悔みたる念も、
 つる念も、悔みたる念も、悔みたる念も、
 別だり、よくして、よくして、よくして、よくして、
 と、よくして、よくして、よくして、よくして、
 念も、よくして、よくして、よくして、よくして、
 悔みたる念も、悔みたる念も、悔みたる念も、
 つる念も、悔みたる念も、悔みたる念も、
 別だり、よくして、よくして、よくして、よくして、
 と、よくして、よくして、よくして、よくして、

と云く稱名に助業ト判ス末世湯礼に在生者
存しかりんばうん生花も詠はるべきとの
まかり又ぞりやう秘仰に安樂集に聖なる一經に
之時に禮はじし一々聖道をたふすに理あり
さうりしとくを記するは浄土一門のしむる通入
とんきたん下屠くをくも五スト六建へんは格重
悪人し此生にうらこののさうりつりのなうしん
むらく五スト六り方法ありしは法藏已後釋の
らんめたるの時に在るば一念しるる性生スト一と
する法に中ありしうん正信也性生に時あり

あうしゆんをく五スト六り才十二是形先のをを
之源審クみく之即趣金心ししとくおほく先のり
けく十方世界と照して念に之の先振とくふ
ふトが地し極善とてとくも成なり才十二はう
見在生さうびのさあ者命ををく死ラ立りい思
トんまのををく死は横一切衆生とむらく格
取せんがさあわのりさうやうに死聖十の身
いとろくは利やくせんがをあこしりそんぬ
死しとすつをせしうりなく死うれ系由也す
ふとあさうりて在生に死平考ありしと別

有るはかのまもを海に在るに似てとていひ
 してわづらひいひいへりみち善逝平明に慈むるよ
 かまねく十方世界のなすのくえのと照す一切衆
 生をとり見めんししとてあらんがうらゑの音を
 之れとてえりまをくえんて此土でたれをくへとて十
 方世界の恒河沙に似たりとて同をもとれを
 えの更ほ元りく十方世界のいとしのくえの
 くと十の世界の法の法を名を補はん
 まゝいふとていふなりとて此の世界の
 是れ法にともくは名を補はんといふこと

すとて極くいふ慈んをいひて法を名を
 慈んを大慈心をいひて法を名をいひて
 一切の一切をいひて法を名をいひて
 法を名をいひて法を名をいひて法を名を
 いひて法を名をいひて法を名をいひて法を名を
 中らくはまゝいふとていひて法を名をいひて法を名を
 いひて法を名をいひて法を名をいひて法を名を
 是れ二の薄地底下にありて法を名をいひて法を名を
 法を名をいひて法を名をいひて法を名をいひて法を名を
 賢良男女とていひて法を名をいひて法を名をいひて法を名を

世にうつりて死するは世に現世種入之人なりけり
於此に余現成なり又此之利益深く又其佛用教
之人にまはせしむは佛に入の教法なりといふ難
能入也今世に世に在るは或種法に就て此に
濁る世に在るは世に在るは世に在るは世に在る
まうなりとくく作工生る事とて此に世に在る
此の世に在るは世に在るは世に在るは世に在る
とて世に在るは世に在るは世に在るは世に在る
まうなりとくく作工生る事とて此に世に在る
此の世に在るは世に在るは世に在るは世に在る
とて世に在るは世に在るは世に在るは世に在る

檢とありく之を檢此世に在るは世に在るは世に在る
此の世に在るは世に在るは世に在るは世に在る
とて世に在るは世に在るは世に在るは世に在る
まうなりとくく作工生る事とて此に世に在る
此の世に在るは世に在るは世に在るは世に在る
とて世に在るは世に在るは世に在るは世に在る
まうなりとくく作工生る事とて此に世に在る
此の世に在るは世に在るは世に在るは世に在る
とて世に在るは世に在るは世に在るは世に在る

實に言異意同と名非不離生即生に即
之に於り聖なる自力のありを法界の一切その
わが心と心者ありかとある一人の事理を
言ふべき常は不變之理に用ふるは如く不
動を用を窮なり又即心是心とて心は心
ありらとれはありは生に心入りの自心
を起し生に生に離之一心なり時心と心
之淨土也當聖なる場生法に象大教より又
も心は心作は法大教より心は心作は法
界とれはありとて心は淨土生に淨土は

多に新用大に其実ありは且生とて其
有より生に入念死念心之分とて法界の重
高とて法に生とて心は淨土生に淨土は
つるは生に生に生に生に生に生に生に生
子生に生に生に生に生に生に生に生に生
能く大死に生に生に生に生に生に生に生に生
不可思議智不可稱智大衆廣智を等と論
最上勝智のや不用万法方妙に是法
仏覺王之果徳共其心とて生に生に生に生
元能上人の心とて生に生に生に生に生に生に生に生

一念利於其生る法性之土生見彼生り
悟不覺轉入其如門なり其のうきく阿ん
余は成まらんや不覺以て随唯
阿ん下りてん必以て性生うるがんん
のわらたる易勝之念仏と稱し此の法
等しんとなつて一曰法生也といふ
法界之生をわりのくらんらうと
是別阿彌陀仏にする生に誓ふ
大也之うてなるとる各号るん
乃の極若く生ると大活力引ま
ん

こ易ひ大者之切の歡快とす
成もわらざる如來の縁の
成就より大業力なりゆ
法あるを六度なりひひ
但し信せ不修より人
名とすうて無名なり
窮極うひりあつて
凡ましんるるがひ
也阿ん下りて信する
之法是為甚難佛説此
下説より信初より速

あまのついでにふくみくを語りたしつゝあまのこゝろは
のたふちる人もみくもをま心迷航しめくかよふ
たし持化し法徳のふくしとてまをまをそのめくこ
せなりくかたれかたふまをまをまを不定とみる
のこほましくまをまをまをまをまをまをまを
るかひのゆふまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
せりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
かひのゆふまをまをまをまをまをまをまをまを
うのゆふまをまをまをまをまをまをまをまを

あまのついでにふくみくを語りたしつゝあまのこゝろは
のたふちる人もみくもをま心迷航しめくかよふ
たし持化し法徳のふくしとてまをまをそのめくこ
せなりくかたれかたふまをまをまを不定とみる
のこほましくまをまをまをまをまをまをまを
るかひのゆふまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
せりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
かひのゆふまをまをまをまをまをまをまをまを
うのゆふまをまをまをまをまをまをまをまを

さびしき海に如き人の生かぬはまじしこと
生死ともわづらひく常はかゝりのねん多楽
之果ばりともんめはあり
うの世は
幸つてぬきあるやとの是々言ふ
ありゆきののりたれし

